

SINOPSIS

1. 序論

言語は国の宝物であり、その国のアイデンティティになる。例えば、日本には日本語があり、インドネシアにはインドネシア語がある。また、インドネシアは多文化主義が強い国なので、色々な文化が含まれる。このようなインドネシアの中でジャワ人という人種がある。そして、このジャワ人の間で、特に東ジャワ州と中部ジャワ州の大部分でジャワ語が使われている。

言語は人間の感情や考え方などを表現している。それぞれの言語の特徴はその言葉や語彙である。「*Mimetics*」という言葉の中で、擬音語 (*onomatopoeia*) というのは物や生物の発する音を表す言葉と、擬態語 (*ideophone*) は生物の様子を表す言葉がある。日本語やジャワ語でもそれらが用いられる。色々な形があり、毎日の生活で伴われる言葉である。しかし、実際には擬音語および擬態語の伴い方がまだ明確になっていない。そこで、本研究では日本語とジャワ語の擬音語および擬態語を対照言語学により分析する。

本研究の目的は以下の通りである：

- 1) 日本語とジャワ語における擬音語と擬態語の共通点と相違点を説明すること
- 2) 日本語とジャワ語における擬音語と擬態語の意味を説明すること

2. 本論

日本語の擬音語と擬態語は四つに分類される。まずは擬音語は擬音語と擬声語に分類され、それから擬態語は擬態語と擬情語に分類される。擬音語は物が発する音を表す言葉で、擬声語は生物が発する音を表す言葉である。そして、擬態語は生物や人の動作の様子を表す言葉で、擬情語は人の感情の様子を表す言葉である。こ

ここで日本語とジャワ語の擬音語と擬態語について収集したデータについて説明する。

(1) 朝から雨がザーザー降っている。

(*Practical Guide Mimetic Expressions*, 1994:82)

*Gludhug lan bledheg ambal-ambalan, tumuli **mak-bres**, udan deres.*

(*Candhikala Kapuranta*, 2002:9)

「ザーザー」という擬音語の意味は大雨の音を表す言葉である。「ザーザー」は重複で、長音である。ジャワ語では *mak-bres* という言葉で突然の大雨の音を表す。しかし、「*mak-bres*」からの *mak*-の接頭辞が突然という意味を伴う。

(2) 空砲を威かくのためにどんと1発ぶっぱなした。

(Atauda & Hoshino, 1995:335)

*Dene suwarane bedil **pating jledor** lan suwara metraliyur kang sajak diempet-empet ngratani kuta ora mratelakake yen akeh wong tangi: sing muni kuwi sajak mung barang mati, mbledos karepe dewe.*

(*Sastra Jawa Mutakhir “Dedemitan Mlebu Kuta” Suparto Brata*, 1995:54)

「どん」という擬音語の意味は爆発音を表す言葉である。「どん」は形態素の形であり、ジャワ語では空砲からの爆発音は「*pating jledor*」という言葉で表す。

Pating- という言葉は連続のことという意味を表す。

(3) 歩道にかちんと落ちたものがあるので拾ってみると、美しい青い石のペンダントだった。

(Atauda & Hoshino, 1995:44)

'Klontang!' tekene jeng Murni ambruk ing jogan, kumandang.

(*Sastra Jawa Mutakhir “Keluwargane Bu Nyai Blorong” Peni*, 1985:97)

「かちん」は金属質と堅い物に打ち当たった出る小さい音の言葉で、

「*klontang*」はジャワ語で、日本語の「かちん」と同じ意味である。その擬音語の形は形態素である。その文の中では「かちんと落ちた」で、「『擬音語』 + 『と』

(助詞) + 『動詞』」になる。擬音語は形態素の形なら「『と』」(助詞) + 動詞」に続く。

(4) ドアをどんどんたたいて「あけなさい！」と呼んでも、中からなんの物音もしない。

(Atauda & Hoshino, 1995:338)

Dhog! Dhog! Dhog! *Lawang ngarep ana sing ndhodhog.*

(Candhikala Kapuranta, 2002:50)

ドアをとんとんノックしてみたが返事がなかった。

(Atauda & Hoshino, 1995:336)

Dog, dog-dog. *Lawang kamare Rahayu didodog lirik saka njaba.*

(Sastra Jawa Mutakhir “Ilang” Ty. Suwandi, 1985:146)

「どんどん」と「とんとん」は重複で、「dhog」と「dog」は形態素である。日本語では濁音を使えば、もっと大きくて、堅くて、強いイメージを表す。例えば、「どんどん」と「とんとん」である。「どんどん」はドアを強くたたく音の言葉だが、「とんとん」はドアを軽くたたく音の言葉である。

ジャワ語でも同様である。「Dhog」はドアを強くたたく音の言葉だが、「dog」はドアを軽くたたく音の言葉である。このデータによると「h」の子音を入れることにより、もっと強い印象を与えることがわかる。ジャワ語では同じ言葉だが、子音をよく見ると、違う意味を持っている。

(5) 池のまわりをぐるぐるまわった。

(Practical Guide Mimetic Expressions, 1994:50)

Asih ***mider-mider*** karo nyekel keris ligan.

(Candhikala Kapuranta, 2002:129)

Jumadi bingung, mlaku ***midar-midar***.

(Candhikala Kapuranta, 2002:165)

「ぐるぐる」という意味は連続して回転する様子という言葉である。「ぐるぐる」は重複で、「ぐるぐる+まわった」なので、「擬態語+動詞」が副詞になる。そして、ジャワ語で、「ぐるぐる」の同義の言葉が二つの形がある。「Mider-mider」と「midar-midar」は重複と母音が変わる重複の擬態語の形である。さらに、ジャワ語の文でも「mider-mider」は動詞で述語になったが、「midar-midar」は副詞で状況語になる。

(6) 中島： うわっドキドキする。
(*Itadaki High Jump*, 2016年3月16日, 10:38-10:43)

Sanalika atine dheg-dhegan, raine pucet.
(Candhikala Kapuranta, 2002:25)

「ドキドキ」は擬情語で、意味は不安や恐怖、期待などで緊張している様子を表す言葉である。ジャワ語では「*dheg-dhegan*」と言われる。「*Dheg-dhegan*」は重複+*-an*の接尾辞の形である。*-an*の接尾辞はその言葉の意味をもって、つまり緊張感がまだ続くという意味を表す。また、「ドキドキ」+するなので、動詞になり、その文では擬情語は述語になる。

(7) ナレーター： ホッとした3人の前に関脇がその姿を見せる！
(*Itadaki High Jump*, 2016年2月24日, 2:14-2:18)

Plong, atine Kandar!
(Sastra Jawa Mutakhir “*Keblinger*” A. Saerozi A.M, 1985:106)

「ホッ」としたという意味は心配事や緊張がなくなって安心する様子を表す言葉である。形は「短音節『ッ』+『と』(助詞)+『する』」である。ジャワ語では「*plong*」という言葉で表す。「*Plong*」は擬情語の形態素である。

3. 結論

本研究により日本語とジャワ語の擬音語および擬態語について、収集したデータを解析した結果、以下のことが分かった。

1) 日本語とジャワ語の擬音語および擬態語の共通点と相違点：

- 日本語とジャワ語の擬音語と擬態語の共通点：

a) 日本語とジャワ語の擬音語と擬態語の形は形態素、重複である。それに、ジャワ語では母音が変わった重複という形もあり、「*dwilingga salin swara*」と呼ばれる。

b) 日本語とジャワ語の擬音語と擬態語の品詞分類は副詞である。しかし、名詞と動詞に派生することが可能である。

● 日本語とジャワ語の擬音語と擬態語の相違点は：

a) 日本語には「*mimetics*」が擬音語と擬態語と呼ばれる。また、擬音語と擬態語は四つに分類される。その四つは擬音語、擬声語、擬態語、擬情語である。しかし、ジャワ語では「擬音語」とか「擬態語」の言葉には特に分類がない。

b) 日本語の擬音語と擬態語の形は形態素でかつ重複である。ジャワ語でも形態素と重複があるが、それだけではない。それは *mak-* と *pating-* の接頭辞と *-an* の接尾辞を伴うものもある。

2) 日本語とジャワ語の擬音語および擬態語の意味：

擬音語と擬態語の意味はそのままの形で文の持つ情報に影響する。文の中では擬音語と擬態語は状況語になり、しかも、その文の中心であり、述語になるときもある。擬音語と擬態語が文にあれば、その文の意味をより詳しく説明することができる。日本語においても、ジャワ語においても、これは同様である。

DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN	i
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	ii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iii
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	viii
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	9
1.3 Tujuan Penelitian	10
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	10
1.4.1 Metode Penelitian	10
1.4.2 Teknik Kajian.....	12
1.5 Organisasi Penulisan.....	12
BAB II KAJIAN TEORI	14
2.1 Sintaksis	14
2.1.1 Struktur Sintaksis	15
2.1.1.1 Fungsi Sintaksis	15
2.1.1.2 Kategori Sintaksis	19
2.1.1.2.1 Kategori Sintaksis Bahasa Jepang	19
2.1.1.2.2 Kategori Sintaksis Bahasa Jawa	20
2.1.1.3 Adverbia.....	23

2.1.1.3.1 Adverbia Monomorfemis	24
2.1.1.3.2 Adverbia Polimorfemis	25
2.1.1.3.3 Adverbia Berunsur <i>mak-</i> atau <i>pating-</i>	26
2.1.2 Satuan Sintaksis	27
2.1.2.1 Kata	27
2.1.2.2 Frase	29
2.1.2.3 Klausa	30
2.1.2.4 Kalimat	30
2.2 Semantik	32
2.2.1 Makna Leksikal	33
2.2.2 Makna Gramatikal	33
2.3 Analisis Kontrastif Bahasa	34
2.4 <i>Giongo Gitaigo</i>	35
BAB III ANALISIS DATA	41
3.1 Sumber Data	41
3.2 Klasifikasi Data	42
3.3 Analisis Data	43
3.3.1 <i>Giongo</i> 擬音語	43
3.3.2 <i>Giseigo</i> 擬声語	55
3.3.3 <i>Gitaigo</i> 擬態語	61
3.3.4 <i>Gijoogo</i> 擬情語	77
3.4 Rangkuman Data	91
BAB IV SIMPULAN	93

DAFTAR PUSTAKA	xi
LAMPIRAN	xiii
SINOPSIS	xxv
RIWAYAT HIDUP PENULIS	xxx

